

# 災害対策と災害時の行動 ～災害の前後を考える～

- ◆日時 令和5年7月5・12・19日(水)  
19:00～20:30(全3回)
- ◆会場 富士宮市役所7階710会議室

座って聴くだけが学びじゃない！  
みんなで大きな地図を囲んで  
新しい視点で災害を体感しよう！

(詳しい内容は裏面へ)

## DIG (災害図上訓練) とは？

- ◆Disaster (災害) Imagination (想像力) Game (ゲーム) の頭文字をとって名付けられた「DIG」
- ◆今回の講義では参加者と講師が一体となり大きな地図を囲み議論をすることで、地域の防災対策を考える訓練をします。

### 小村 隆史 准教授

- ◆常葉大学 社会環境学部 防災・地域安全コース
- ◆防衛庁(当時)防衛研究所助手、主任研究者を経て、2000年の富士常葉大学の開学と共に創立メンバーとして着任。
- ◆大学の改組・移転を経て2018年から現所属。  
災害図上訓練 DIG (Disaster Imagination Game) の考案者。



### 申込について

- ◆対象 富士宮市・富士市に在住・在勤・在学の方
- ◆定員 50人 ◆受講料 1,200円(全3回)
- ◆申込期間 6月12日～23日(先着順)
- ◆申込方法 社会教育課へ電話または電子申請で  
(電子申請はクレジットカードでの決済も可能です)



- ◆問い合わせ先 富士宮市教育委員会 社会教育課 0544-22-1186

## ◆1回目(7/5) 『時代の宿命』としての南海トラフ地震

次の南海トラフ地震が近づいています。概ね90年～150年周期で襲ってくるこの広域災害の、一つ前の発生は敗戦前後でした。40年ほどの静穏期はあったものの、すでに活動期に入って久しく、私は2030年代半ばから後半の発生を覚悟しています。大切なことは、日本社会の少子化高齢化が進み、地域が相当に弱くなってしまったところに襲い掛かってくる巨大災害であること。残念ながら助っ人は現れてくれません。この「時代の宿命」とどう立ち向かえば良いのか。皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

## ◆2回目(7/12) 富士宮市は実は支援側！ 求められる行政支援ボランティア

南海トラフの北東のはずれは駿河湾であり、一部は陸域にかかると考えられています。南海トラフ地震は、静岡県民にとっては真下で発生するプレート境界型地震であり、距離減衰で弱まることなく揺れは襲い掛かり、駿河湾の真ん中が割れるが故に津波は必至です。ただ、富士宮市の揺れはまだ小さく、津波被害もありません。であればこそ、富士宮市民は支援側に回ることが求められます。「国道469号経由で御殿場の陸自が駆けつけてくれるから大丈夫」というのは素人さんの発想。取り組むべきは行政支援ボランティアです。

## ◆3回目(7/19) 宝永地震・宝永噴火の再来はある？ない？

3つ前の南海トラフ地震である宝永地震(1709年10月28日、和暦では宝永4年10月4日)では、その49日後の同年12月16日(和暦では同年11月23日)に、富士山南東山腹から噴火が始まりました。これが富士山宝永噴火であり、その跡が宝永山です。では、次の南海トラフ地震では、連動しての富士山噴火はある？ない？答えは「わからない」ですが、「噴火するならどうなるか」は、多少はわかります。富士山噴火の様相と求められる災害対応について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

## 会場案内

富士宮市役所 7階 710会議室

〒418-8601

静岡県富士宮市弓沢町150

(夜間入り口から入っていただき  
左手にあるエレベーターで7階へ)

